

広島市立早稲田中学校2年生 防災学習

日時: 令和4年6月10日実施 参加: 早稲田学区自主防災連絡協議会 防災士3名

1. 防災学習の目的説明



2. 災害エスノグラフィによる追体験

- 1) 災害エスノグラフィとは何か
- 2) 災害エスノグラフィによる追体験

●平成30年7月豪雨の被災者の方の体験談から (体験談のポイント)

- ・大雨で避難を考えていたが、足が悪い妻とペットのため自宅2階への垂直避難もできず、1階の台所で避難する予定でした。
- ・近所の友人から家に来るように言われ、避難させてもらうことになった。
- ・夜遅くに土石流が流れてきた後、消防署の職員から友人宅も危ないので、川から離れた場所に避難するようにうながされた。
- ・友人宅からさらに別の家に避難した後、自宅を確認しに行くと、家には土石流が流れ込み壊滅していた。
- ・大雨の時に山が崩れてくるのではと警戒していたが、そこは別の場所から土石流が発生し、何軒もの家を巻き込んでずっと下流まで流れた。
- ・災害後は、友人とその家族がすすんで家の土砂の撤去などを手伝ってくれてありがたかった。
- ・さらにボランティアの方も手伝ってくれて家をきれいにする事ができた。
- ・家はきれいになったが、もはや作り直さないと住めない状態だったので、自宅は解体することにして、離れた地域にある親戚の家に引っ越しした。
- ・災害のあった地元の方は暖かな声をかけてくれるが、元の家にはもう怖くて住むことができない。
- ・引っ越した先でも強い雨が降ると怖く、神経質になっている。
- ・今回の災害を体験して思うのは、早め早めの避難が大切なこと。引っ越した先でも避難所の場所を確認し、すぐに避難できるようにしている。
- ・体が不自由な人やペットがいる家は、避難所でも生活が難しい。
- ・近所で声をかけてくれる存在があるのはありがたい。家族構成や事情などを知っている人の存在は大切であり、新しい場所でも近所付き合いと大切にしたいと思う。

3) 体験談から「初めてしったこと」「大切だと思うこと」をそれぞれマーキング

①災害エスノグラフィによる追体験

3. 体験談からグループでの意見のとりまとめ

- 1) グループで体験談から特に印象に残ったこと、災害に対して大切だと感じたことについて意見交換
- 2) グループでとりまとめのテーマを整理し、そのテーマに対して大切だと思うことをとりまとめ



4. 各グループのとりまとめ結果の発表



〈グループのとりまとめ結果〉

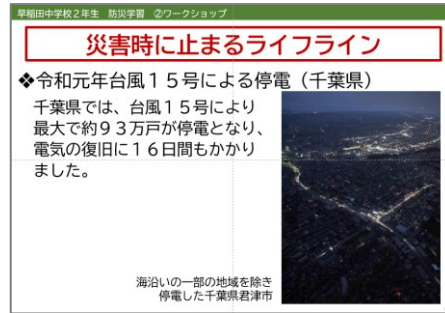
班	印象に残ったこと	大切だと感じたこと
①	どこにいても安全な場所はないこと	近所付き合いの大切さ
	避難所においても危険な場合がある	早めの避難が大切
	ペットがいるとなかなか避難できない	助けてくれる人への感謝の気持ち
②	想像以上のことが災害では起こること	避難をする時のタイミング
	ペット連れや体が不自由な人の避難	大小かわかわらず自分も被害を受ける危険性
	助けを求められる近所との付き合い	
③	大きな災害が頻繁に起きている	早めの避難や日頃の備えの必要性
	災害時に119番がつかまらない	災害の知識をきちんと持つ
	数時間で家が無くなってしまっていた	お互いに声をかけあうこと
④	ペットを避難所に連れていけない	避難場所と避難方法を確認しておく
	百年に一度の雨が何度も起きている	災害をテレビの中の出来事だと思わない
	近所の人が助けてくれる	体が不自由な人は早めの避難が必要
⑤	自宅以外へ避難することの難しさ	明るいうちに避難をしておくこと
	ペットや誰かと避難することの大変さ	どこにいても危険なことを意識する
		近所での助けあい
⑥	災害の現実を受け入れることは難しい	避難の大切さ
	大雨が引き起こす災害は恐ろしい	災害に備えた近所付き合い
	災害を経験していない人はピンとこない	

広島市立早稲田中学校2年生 防災学習

日時: 令和4年6月17日実施 参加: 早稲田学区自主防災連絡協議会 防災士3名

1. ライフラインの解説

- ・ライフラインとは
- ・災害時に止まるライフライン
- ・ライフラインが止まった場合の応急対策
- ・ライフラインが止まった時の注意点



2. ワークショップ「ライフライン停止に備える」

- 1) ワークショップの進め方
- 2) 電気・水道が止まった時の備えを考える
 - 電気・水道が止まった場合に困ることを考える
 - 困ることの解決方法を考える
 - 自分たちでできる備えは何かを考える

②ワークショップ「ライフラインが止まった時のために」

3. グループ発表

※6グループが順番に困ること、必要と思う備えについて発表



4. 在宅避難などにおける備えの大切さ（講話）

- ・備蓄品の備えについて
- ・ライフラインの被害の例

〈グループのとりまとめ結果〉

班	電気		水道	
	止まると困ること	解決の方法	止まると困ること	解決の方法
1班	・情報収集ができない ・照明器具が使えない ・ゲームができない	⇒ ・ラジオを聞く ⇒ ・かい中電灯を使う ⇒ ・カードゲームをする	・飲食ができない ・お風呂に入れない ・トイレが使えない	⇒ ・非常食や水を準備しておく ⇒ ・ウェットティッシュでふく ⇒ ・簡易トイレを使う
2班	・部屋の電気(照明)が使えない ・スマホの充電ができない ・エアコンが使えない	⇒ ・かい中電灯やローソクを使う ⇒ ・モバイルバッテリーを準備しておく ⇒ ・カイロやうちわを用意しておく	・トイレにいけない ・お風呂に入れない ・洗たくができない	⇒ ・公衆トイレを使う ⇒ ・災害用のトイレを準備しておく ⇒ ・水を用意しておく
3班	・電気が使えなくて真っ暗になる ・エアコンが使えない使えなくなる ・スマホから情報が入らなくなる	⇒ ・夜に慣れる ⇒ ・手回し扇風機やうちわを使う ⇒ ・モバイルバッテリーを使う	・お風呂に入れない ・手洗いやうがいができなくなる ・水が飲めなくなる	⇒ ・除菌シートなどを準備しておく ⇒ ・水のろ過器を用意する ⇒ ・ペットボトルの水を準備する
4班	・部屋の電気(照明)が使えない ・テレビが見られない ・冷蔵庫の食べ物が腐ってしまう	⇒ ・ライト(かい中電灯)を買っておく ⇒ ・ラジオを準備する ⇒ ・クーラーボックスを用意する	・歯がみがけない ・水が飲めない ・風呂に入れない	⇒ ・飲料水でうがいをする ⇒ ・水の買い置きをしておく ⇒ ・お風呂などに水をためておく
5班	・冷蔵庫などが使えない ・テレビが見られない ・部屋の電気(照明)が使えなくなる	⇒ ・サバイバルの達人になる ⇒ ・新聞を読む ⇒ ・かい中電灯を使う	・洗濯ができなくなる ・手や体が洗えなくなる ・トイレが使えない	⇒ ・川で洗濯する ⇒ ・消毒液を持参しておく ⇒ ・非常用トイレを作る
6班	・スマホが充電できない ・アニメが見られなくなる ・エアコンが使えない	⇒ ・モバイルバッテリーを準備する ⇒ ・アニメを録画しておいてもらう ⇒ ・うちわを使う	・料理が作れなくなる ・飲料水がなくなる ・風呂に入れない	⇒ ・非常食を買っておく ⇒ ・ペットボトルの水を買っておく ⇒ ・汗ふきシートなどを準備しておく

広島市立早稲田中学校3年生 防災学習

日時: 令和4年9月9日実施 参加: 早稲田学区自主防災連絡協議会 防災士4名

1. 2年生の防災学習のふり返り (13:30~)

- ・ディスカッション
- ・わせだ防災マイタイムラインの作成
- ・ワークショップ「ライフラインが止まったら」



2. 防災マップに参考になる情報を表示する (13:40~)

※今回は時間制限の都合により、簡易DIGで実施

- 1) わせだ防災マップを確認する
→ 防災マップに示されている情報を確認する
- 2) 自宅に白い丸シールを貼る
→ 自宅が土砂災害に対して危険な場所にあるかを確認する
- 3) 避難場所として使える場所・施設に緑の丸シールを貼る
→ 公的な避難場所だけでなく、広場や堅牢な建物なども確認
- 4) 災害時に役立つと思われる場所・施設に黄色の丸シールを貼る
→ 公衆電話、AED、自動販売機などの機器などがある場所など
→ コンビニ、薬局、治山えん堤などの施設がある場所など
- 5) 危険が発生すると思われる場所に赤の丸シールを貼る
→ 土石流が始まる谷の出口、急な斜面、川・水路の水があふれる場所など
- 6) バスも通行できる大きな道路は、マジックでピンク色の線を引く
- 7) 川や大きな水路 (暗渠以外) は、マジックで青色の線を引く
- 8) その他に防災を考えるうえで気になる箇所があれば、付箋紙にメモしてマップに貼っておく



3. 防災マップの情報を整理する (14:30~)

- 1) マップの情報から、防災に関して早稲田学区の良さそうところを探す
- 2) 同様に早稲田学区の問題がありそうところを探す
- 3) 良さそうところ、問題がありそうところを「まとめシート」で整理する

4. 災害情報から実際の災害を想定してさらに考える (14:45~)

- 1) 大きな地震が発生した場合を想定して、自分が自宅にいる時の防災行動を考え、地域に問題点がないか再確認する
- 2) 再確認して新たな発見があれば、まとめシートに追記する

①わせだ防災マップを活用したDIG (ディグ)

5. グループ発表 (15:00~)

各グループ毎に、DIGで確認できた防災に関する早稲田学区の良いところ、問題があるところについて、まとめシートから代表的なものをまとめて発表



6. 学習のまとめ (15:15~15:20)

〈グループのまとめシートの整理結果〉

班番号	DIGで確認した早稲田学区の良いところ	DIGで確認した早稲田学区の問題があるところ
1組		
1	電灯が多くて明るい 公園がたくさんある 町の標高が高いので津波が来ない	道路がせまい場所が多く移動が難しい場所がある 大小の水路が多くて避難のための移動が大変 坂が多くて避難のための移動が大変 土砂災害の危険性が高い場所に囲まれている
2	公園が多くて避難に使える場所がある マンションなど災害に強い高い建物が多くある 学校や大学のグラウンドなど広い土地がある スーパー、コンビニなど役に立つ場所が近くにある	街灯が少なく暗い場所があり、夜の移動が難しい場所がある 坂が多く避難のための移動が大変 歩道が設置されていない場所や狭い場所があり危険 地域の半分ぐらいが土砂災害に対して危険区域になっている 避難所で受け入れられる人数が少ない
3	避難場所などで使用出来る公園がたくさんある バスなど大型車が通れる広い道が多くある 土砂災害などに強いマンションが多くある 広く空いた場所がある	地域全体が坂だらけで移動が大変 電灯が無い場所や少ない場所があり、移動などが困難 道路の大きさに対して車の通行量が多い お店が少なくすぐに必要な物が手に入らない バスが通れないような狭い道が多くある
4	道幅が広いので、大雨になっても川のようになりにくい 公園など広い敷地が多く、多くの人が集まりやすい 街灯が明るい場所もある 自然が豊で、森が土地を支えているので災害が起りにくい	坂が多く、厳しいので大雨の時に側溝の流れが速く危険 街灯が少ない場所が多く、夜は危険な場所がある 土砂災害の危険性が高い場所が多い
2組		
1	みんなが使える公衆電話がある 公園が多くあり、避難などに使える バスが地域全体に通っていて移動に使える 場所が高く津波には襲われない 歩いてでも広島駅まで行くことができる	病院が少なくケガ人などが出た時に困る 坂が多いので移動が大変 大きな通りが少なく車の移動がしづらい 避難場所が少なく、避難するのが遠い人がいる 山に囲まれ土砂災害が起りやすい 公民館は避難者が多いとベットの運搬が難しい
2	災害時に役立つ公衆電話がある 地域を貫いて通る路線バスが運行している 牛田早稲田三丁目周辺の学区の中央部は安全な地区である	坂が多く歩くのが大変 学区内にお店が少ないので買い物などができない 山が近く災害の危険性がある 避難場所がある場所が偏っているため避難が難しい人がいる 支援物資を提供しやすい場所がどこか分からない
3	住民が集える公園がいろいろな場所にある 雪が積もる心配をなくしている	山が近くがけも多いので、土砂災害が発生する危険がある 道がせまいので徒歩や車で移動が危険な場所がある 坂が多いので避難するのが大変 道路がガタガタになっている場所がある
4	避難所が多いので避難しやすい 治山えん堤がいくつもある 避難場所として使える公園が多くある 防災に役立つ施設が多い	災害が起こる危険性のある範囲が広い 坂が多く道が狭いので、避難など集団での移動が困難 高齢者全員が避難できる避難場所が足りない 避難場所が密集しており、避難しづらい地区がある お店がないので物資の調達ができない

広島市立早稲田中学校3年生 防災学習

日時: 令和4年9月16日実施 参加: 早稲田学区自主防災連絡協議会 防災士4名

1. ガイダンス (13:30~)

- ・災害時の助けあいの必要性

2. ワークショップ「災害時の支援について考える」 (13:40~)

- 1) 災害時に支援が必要となる人は誰かを考える
- 2) 支援を必要とする人にどんな支援が必要なのかを考える

3. 防災マップから支援における問題を考える (14:40~)

- ・DIGで整理した早稲田学区の問題について、災害時の支援の観点で再確認する

4. グループ発表「支援が必要な人への支援方法」 (15:00~)

5. 解説「災害時に誰かを支援するために必要なこととは何か」 (15:15~15:20)

②災害時の支援を考えるワークショップ



〈ワークショップのまとめ〉 災害時に支援が必要な人たち

- ・高齢者
- ・移動手段のない人
- ・薬が必要な人
- ・一人暮らしの人
- ・介護が必要な人
- ・障がい者
- ・病気の人、けが人
- ・特別な医療が必要な人
- ・大家族
- ・子ども、子どものいる家族
- ・両親が共働きの家庭の子ども
- ・乳幼児 (とその家族)
- ・妊婦さん
- ・ペットを飼っている人
- ・シングルマザー
- ・孤児
- ・被災した人
- ・インフラが停止した人
- ・貧困者
- ・ホームレスの人
- ・土地勘がない人
- ・帰宅困難者
- ・外国の人

〈グループのとりまとめ結果：災害時に必要と思われる支援〉

災害時に必要と思われる支援	
1組	1班：インフラ (ライフライン) が停止している人への支援 ・電池を支給する ・ガスコンロ (ガス) を支給する ・ライト、懐中電灯を支給する ・仮設トイレを設置する ・水や電気を使わなくても使用できる生活用品を支給する ・水 (飲料水、生活用水) を提供する ・ラジオを提供する ・保冷剤やカイロを支給する ・食べ物を提供する
	2班：子ども、子どものいる家庭への支援 ・保育士など世話をする人を提供 ・遊び相手、話し相手になる ・遊び道具、遊べる場所を提供する ・きちんと寝られる場所を提供する ・衣服 (着替え) を用意する ・おむつを提供する ・体温調節ができるように環境を整える ・離乳食、ミルクを提供する ・おやつを提供する ・栄養補給ができるように支援する
	3班：高齢者への支援 ・早めの避難を呼びかける ・避難場所に連れていく ・健康に良い食料、非常食を支給する ・ストレスなどでパニックにならないように声をかけてあげる ・布団などを用意して体を冷やさないようにする ・薬など医薬品を提供する ・車いすを用意しておく ・大人用オムツを支給する
	4班：障がい者への支援 ・介護をしてくれる人に支援を求める ・避難所まで道案内をする ・安全な避難経路を見つけてあげる ・生活を手助けする ・非常用のトイレを提供する ・夜間に困らないようにライトで照らす ・代わりに荷物を運んであげる ・車いすを運んであげる ・一緒にいて過ごす ・手を添えてあげる

●災害時に必要と思われる支援	
2組	1班：ペットを飼っている人への支援 ・ペットのえさを提供する ・リード (首輪) を用意する ・ケージを提供する ・ペットを連れた家族が避難できる個室を用意する ・ペットが苦手な人やアレルギーがある人と分離できるように準備する ・ペットのトイレを提供する ・ペットも入れる施設を提供する ・キャリーバッグを用意する
	2班：高齢者への支援 ・日用品を提供する ・食料品を提供する ・移動手段を用意する ・一緒に避難する ・身動きできない人を介護できるようにする ・避難場所をととのえる ・安全に過ごせる避難場所を提供する ・健康管理のお手伝いをする ・荷物をもってあげる
	3班：移動手段がない人への支援 ・支援バスを準備する ・災害支援車を使う ・避難する時に一緒に移動する ・車と一緒に乗せてあげる ・移動を支援してくれる人をお願いする ・車を貸してあげる ・食料や水を届ける ・買い物の支援をする ・支援物資の運搬をする
	4班：子ども・子ども連れの家族への支援 ・子どもの服を提供する ・食料やお菓子を提供する ・避難場所まで一緒に行く ・おもちゃを用意する ・風邪をひかないように毛布を用意する ・ミルクや離乳食を用意する ・ほ乳瓶を用意する ・おむつを提供する ・遊び相手になる

広島市立早稲田中学校3年生 防災学習

日時: 令和4年9月30日実施 参加: 早稲田学区自主防災連絡協議会 防災士5名

1. これまでの学習のおさらい (13:30~)

- ・ わせだ防災マップによるDIG
- ・ 災害時の支援を考えるワークショップ



2. DIGまとめシートの仕上げ (13:35~)

- 1) 早稲田学区の問題の解決方法を考える
→ 個人でできること、地域の人と共同でできることを考える

	DIGで確認した早稲田学区の問題があるところ	早稲田学区の問題の解決方法(案)	
		解決方法(案)	個人* 地域*
1組			
1班	道路がせまい場所が多く移動が難しい場所がある 大小の水路が多くて避難のための移動が大変 坂が多くて避難のための移動が大変 土砂災害の危険性が高い場所に囲まれている	高齢者など車を持っていない人を助ける 土砂災害で危険な場所にいる人は、早めに避難する	○
2班	街灯が少なく暗い場所があり夜の移動が難しい場所がある 坂が多く避難のための移動が大変 歩道が設置されていない場所や狭い場所があり危険 地域の半分が土砂災害に対して危険区域になっている 避難所で受け入れられる人数が少ない	ライトなどを公民館などで無料貸し出しする 台車を貸し出して荷物を運びやすくする 交通安全ボランティアを増やして協力してもらう わせだ防災マップを使って小学校で学ぶ 避難生活をしやすいようテントを用意する 車で避難生活ができるように準備しておく	○ ○ ○ ○ ○ ○
3班	地域全体が坂だらけで移動が大変 電灯が無い場所や少ない場所があり、移動などが困難 道路の大きさに対して車の通行量が多い お店が少なくすぐに必要な物が手に入らない バスが通れないような狭い道が多い	懐中電灯を持って外に行く 電灯を取り付ける、もしくは増やす 日頃から非常持ち出しをしておく 車を使って物資を配ったり、もらいに行ったりする 車が少ない道(裏道などを含む)を使って移動数する	○ ○ ○ ○ ○
4班	坂が多く厳しいので大雨の時に側溝の流れが速く危険 街灯が少ない場所が多く、夜は危険な場所がある 土砂災害の危険性が高い場所が多い	夜は常に懐中電灯を持つようにする 2階に非常持ち出しバッグを置いておく 家族で土砂災害が発生した時どうするか決めておく 側溝をでこぼこにしたりして流れを遅くする	○ ○ ○ ○
2組			
1班	病院が少なくケガ人などが出た時に困る 坂が多いので移動が大変 大きな通りが少なく車の移動がづらい 避難場所が少なく、避難するのが遠い人がいる 山に囲まれ土砂災害が起こりやすい 公民館は避難者が多いとバットを連れて入れない	救急救命用具を準備し救急搬送できるようにする ロープウェイを設置する 空き家を撤去して道路を拡げる 避難場所を増やす お祭りなどで資金を集め、砂防ダムを設置する バットを連れて来た人だけが集まれる避難場所を増やす	○ ○ ○ ○ ○ ○
2班	坂が多く歩くのが大変 学区内にお店が少ないので買い物などができない 山が近く災害の危険性がある 避難所がある場所が偏っていて避難が難しい人がいる 支援物資を提供しやすい場所がどこか分からない	早稲田学区だけ巡回する小さいバスルートをつくる 休日だけでも学区内にお店を開く お祭りを開いてお金を集め、様々な整備をする	○ ○ ○
3班	山が近くがけも多いので土砂災害発生時の危険がある 道がせまく徒歩や車で移動が危ない場所がある 坂が多いので避難するのが大変 道路がガタガタになっている場所がある	砂防ダムをつくって災害を防ぐ 通行しやすい道路を探して情報を伝える 電動自転車のステーションを作る 道路をきれいに舗装する 土砂災害の危険箇所には近づかないよう呼びかける	○ ○ ○ ○ ○
4班	災害が起こる危険性のある範囲が広い 坂が多く道が狭いので、避難など集団での移動が困難 高齢者全員が避難できる避難場所が足りない 避難場所が密集しており、避難しづらい地区がある お店がないので物資の調達ができない	治山えん堤を増やして災害が起こらないようにする 地形を変えて、道を拡げる 避難場所を増やして受け入れられる避難者を増やす 避難場所が遠い地区に新たな避難場所を作る お店を増やして買い物がしやすいようにする	○ ○ ○ ○ ○

③DIGのまとめと防災レスキューカードの作成

3. 防災レスキューカードの作成 (14:30~)

- ・ これまでのDIGやワークショップを通じて考えたことを参考に、自分が災害時に助けたい人と自分ができることを考え、レスキューカードに記入する

WASEDA RESCUE CARD

わせだ レスキューカード

名前 _____

助けたい人 _____

災害時に自分ができること _____

4. 個別発表 (14:50~)

- ・ レスキューカードの記載内容とそこに込めた思いを各自から発表



5. まとめ (15:10~15:20)

- ・ 誰かを助けるために大切なことについて講義

〈作成されたレスキューカードの紹介〉

WASEDA RESCUE CARD

わせだ レスキューカード

名前 _____

助けたい人 近所の人(高齢者)

災害時に自分ができること
避難を呼びかける
避難所まで誘導する

WASEDA RESCUE CARD

わせだ レスキューカード

名前 _____

助けたい人 近所の子どもたち

災害時に自分ができること
優しく接する
遊び相手、話し相手になる

WASEDA RESCUE CARD

わせだ レスキューカード

名前 _____

助けたい人 家族(とペット)

災害時に自分ができること
家族の安否を確認する

WASEDA RESCUE CARD

わせだ レスキューカード

名前 _____

助けたい人 家族、友達

災害時に自分ができること
避難を手伝う
力仕事を手伝う
連絡を取りあう